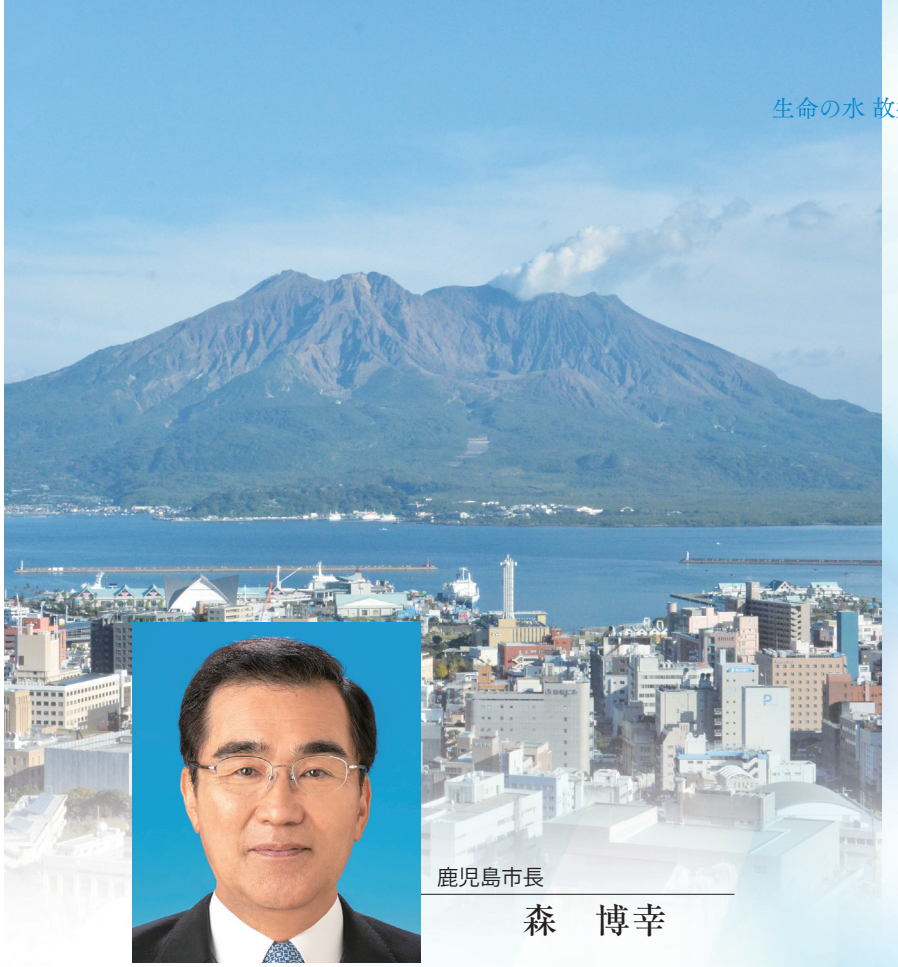

鹿児島市長

森　博幸

ごあいさつ

鹿児島市の水道は、大正8年11月26日に給水を開始して以来、100周年という大きな節目を迎えることができました。

109か所にも及ぶ水源地から約60万市民の生命の水を毎日絶やすことなく供給する体制を築き上げてきた先人の努力と業績に敬意を表しますとともに、今日まで温かく見守り、支えていただいた市民の皆様に心から感謝申し上げます。

100年の歴史を振り返りますと、「近代水道」誕生となった七窪水源地や上之原配水池を中心とする水道施設の通水は、第一次世界大戦による物価の高騰や隧道の落盤事故など幾多の困難を乗り越えた一大事業でございました。その後も、第二次世界大戦の戦火による被害や度重なる渇水、平成5年の8･6水害など、本市の水道事業には多くの試練が立ちはだかりました。その一つ一つを先人たちの知恵や関係の皆様のお力添えで克服し、下水道事業も含め、本市の水道事業は拡張を続けてまいりました。

そして、令和という新たな時代を迎えた本年度、本市も市制施行130周年という大きな節目を迎える中、水道事業の拡張の歩みは、政治、経済、文化、医療といった高次の都市機能が集積する南九州の中核都市としての本市発展の歴史と軌を一にしてきたものでございます。

水道施設は、市民生活にとって欠かすことのできない最も重要なインフラの一つであり、近年は多発する大規模災害対策や増大する老朽化施設への対応など、様々な社会情勢の変化に即応した取組も強く求められております。本市におきましても、「市民生活を支える機能性の高い快適なまち」を基本政策の一つに掲げ、水道管路の耐震化や配水管の布設替え等を積極的に進めております。

結びに、近代水道100周年という大きな節目にあたり、「生命の水　故郷の水　未来まで」を合言葉に、先人が築いてきた湧水水源や浄水場などの水道施設を大切に維持管理し、安全で良質な水の安定供給を1日も欠かすことなく、次の世代に引き継いでまいる所存でございますので、今後ともより一層のお力添え賜りますようお願い申し上げます。

水道事業及び
公共下水道事業管理者

秋野 博臣

ごあいさつ

明治後期に交通の発達などによる市勢の発展や、防疫、防火への備えとして大規模水道の建設を求める声の高まりに応えて七窪水源地・上之原配水池を新たに建設し、大正8年に通水を開始したことが本市の近代水道の始まりでした。

その後、経済成長に伴う水需要の増加や、市域の拡大、人口の増加などに応じて取り組んだ結果、現在では、約60万人の人々に年間約6,500万㎥の水を供給し、市民の日々の生活を支えています。

これまで、戦災復旧や水不足への対応、災害復旧など、数多くの困難もありましたが、市民の皆様の温かい支援や先人の不断の努力により、これらを克服することができました。

昨今の水道事業をめぐる状況は、ライフスタイルの変化や節水機器の普及、人口減少などにより、水需要が減少傾向にあり、また、更新を必要とする施設が増加していくことから、経営環境は厳しくなってまいります。

水道が拡張から保全の時代へと移るなか、中長期的な視点で計画的に事業を行いつつ、災害対策などに取り組んで、経営基盤の強化や安全で良質な水の安定供給を実現したいと考えています。

これからも未来を見据え、より一層の効率的な経営に努め、安心安全な水の供給と快適な生活環境の確保に職員一丸となって取り組んでまいります。

本誌が近代水道通水100年のあゆみを振り返り、本市水道について理解していただく一助となれば幸いに存じます。